

我國に於ける衛生工業發達の梗概

衛生工業協會前會長 曾 爾 達 藏

衛生工業の何たる乎を説明し其重なる種類を別舉し其中の蒸汽煖房、温氣煖房温水煖房及冷房法換氣法の起源より今日の發達に至れる經路を略叙しプランニング工事汚水、汚物の處理等に言及す。

冶金學上より見たる鑄造術進歩の趨勢

日本鐵鋼協會評議員 齋 藤 大 吉

鑄鐵鑄造術は機械製作業の基礎なるに最近まで其研究は寧ろ忽せにさて居つた然るに最近十數年來内燃機、自動車工業の發達、高熱蒸汽の應用等は高級鑄物を要求するに至つた結果内外とも最近多常の進歩も呈するに至つた、本邦に於ても大正七年石川登喜治博士が菊日の組織鑄鐵の研究も發表してより以來各所に於ける高級鑄物の研究漸く旺盛となり東には新潟鐵工所松浦氏の高滿庵せし「スチール」の如き西には堀切工學士の高滿庵高法素せし「スチール」の如き何れも出色のものである歐米に於ける此種の研究中「ランツ式」「バーライト鑄物」「エンメル式」低炭素鑄鐵の熔鉄爐熔融法、「ピウオワルスキー」の熔鐵過熱法等探つて以て吾人の參考に資すべきもの多し雖も本邦に於ける研究も決して彼に劣るものに非ることも高唱す。

最近十年間に於ける我國照明界の進歩に就て

照明學會々長 本 野 亨

最近十年間に於ける我照明界の進歩の跡を省みれば實に隔世の憾があるがこれ全く真空タングステン電球の進歩、瓦斯入電球の勃興によるもので殊に瓦斯入電球の出現を見なかつたなら照明界のあらゆる方面に到底今日の盛況を見ることは出来なかつただらう其結果として需用家燭力の増進街路屋外の照明に顯著なる進歩を示している。

懇親會晚餐會

帝大講堂に於ける大會後、午後六時から上野精養軒にて會員有志の晚餐會が盛大に行はれ出席者 470 餘名に及んだ。

翌十一月四日からは各學會の部會講演會が各所で開催された、其中で土木學會と建築學會との講演者は次の通りであつた。

土木學會の講演會

會場 麴町區有樂町 商工獎勵館

(第一日)十一月四日午後五時開會

演題及演者

風と低氣壓に伴ふ海水位の變化に就て。  
東京帝國大學教授 井 上 範  
二軸的に見たる熱應力の問題。  
東京帝國大學教授 山 口 昇  
促進汚泥法の實驗報告。  
東京市土木局下水課三河島汚水處分場長 廣 中 一 之  
水道大鐵管の磨損に依る損失水頭の實驗報告。  
東京水道局工事課長 小 野 基 樹  
鋪裝に就て 復興局道路課長 牧 野 雅樂之丞  
荒川橋梁工事に試みたる新工法に就て。  
鐵道省東京第壹改良事務所長工學博士 大 河 戸 宗 治

(第二日)十一月五日午後五時開會

演題及演者

清水隧道工事に於ける液體酸素爆藥の試用に就て。  
鐵道省建設局工事課長 橋 本 敬 之  
本邦に於ける道路施設  
内務省土木局第一技術課長 島 重 治  
本邦に於ける港灣に就て  
内務省横濱土木出張所長工學博士 安 藝 杏 一  
田代川發電所建設工事に就て  
東京電力株式會社田代川建設事務所長 新 井 榮 吉  
鐵道隊道の開通後に於ける換氣。  
京都帝國大學教授 瀧 山 與  
日本及獨逸の標準試驗方法に依る同一混凝土の應壓強度に就て。  
九州帝國大學教授工學博士 吉 田 徳 次 郎

建築學會の講演會

(日時)十一月五日午後一時より五時迄

會場 東京市麴町區永樂町

日本工業俱樂部

演題及演者

開會の辭。  
副會長 正員 工學士 中 條 精 一 郎  
君光彈性學に依る構造の研究。  
東京高等工業學校教授正員工學士 二 見 秀 雄  
キトルキウスの建築論。  
京都帝國大學助教授正員工學士 森 田 慶 一  
耐火構造。  
東京帝國大學教授正員工學博士 内 田 祥 三  
鐵筋コンクリート構造の實驗的研究に就て。  
神戸高等工業學校教授正員工學士 田 邊 平 學  
建築藝術に對する一考察。  
東京帝國大學教授正員工學博士 伊 東 忠 太  
閉會の辭。  
會長 正員工學博士 塚 本 靖